

南部広域行政組合教育委員会 上原武 教育長講話
「温故知新」

南部広域行政組合教育委員会 上原武 教育長が、「温故知新」と題して、教育長講話を2月17日(水)に行いました。

漢字の成り立ちの説明で研究員の興味をひき、実際にゲームをすることで、和やかな雰囲気を作り出し、講話が始まりました。その後、新任教員としてスタートした松島中学校での学級担任として、生徒一人一人を大切にしたい情熱溢れる実践、勤務先での素敵な先輩方との出会いからの学び、教育は仲間と互いに支え合って実践していくことが大切だと身をもって感じていること、生徒指導困難校でも教育への情熱とその行動力があれば「自分たちの手で変えることができる。生徒が変わり学校が変わっていく」と熱く語って下さいました。

結びに、教育研究員に「一生懸命汗をかき、失敗して恥をかき、悔しさに涙して、それでも学び成長し続ける教員になってほしい、教育の道は、家庭の教えて芽を出し、学校の教えて花が咲き、世間の教えて実がなります。ぜひ、教育は人生の種まきをすることだと思ひ、実践を続けて下さい」と、暖かいまなざしを向けました。

【講話の主な内容】

1 発想の転換 (先生らしくない先生)・・・处世術

- (1) 漢字遊び (处世術) 漢字のおもしろさ発見 (すべて意味がある
大変 (たいへん)、
有り難う (ありがとう)
危機→機会 (ピンチ→チャンス)
・人 ・主 ・立 ・恩
- (2) ゲーム

ア ハンカチ落とし イ あっち向いてホイ ウ 太郎さんゲーム エ レクダンス

2 新任教員の頃(松島中学校・・・復帰前は琉球政府立)

- (1) 学級担任 学級経営の難しさ YMCA レク研修→九州初の修学旅行
- (2) 暑中お見舞い申し上げます
- (3) 謹賀旧正
- (4) 終了証書 (学期ごとに・・・通知表以外に)
- (5) さよならの季節に
- ※ 沖縄産業開発青年隊・・・180度回転の別世界
・荒く青少年 (海外に夢を馳せる) ・自然との営み ・海外派遣協力隊

3 出会い

- 教育実習・・・素晴らしい教師・生徒との出会い (運命をも変える) 池村先生
- 補充教員・・・難聴騒ぎ ・那覇中 仲村渠先生 (後に媒酌人)
- 新規採用・・・松島中 山内先生、東江先生、中村先生 (結婚披露宴 司会)

4 意気に感ず・・・学校を変える

- (1) 松島中学校 琉球政府立
- (2) 比屋定小中学校 文部省指定体力づくり研究校 (県第1号)
・研究主任として方向付け 小学校・中学校の児童生徒の発達段階を考慮
・3年間の研究成果は、体力の向上のみならず、学力の向上も併せて職員のチームワーク、そして、一番の成果は地域との連携が大きな財産となる。
- (3) 上山中学校 本土派遣研究教員 (埼玉) 最終派遣 58会
- (4) 石田中学校 沖縄県中体連・九州中体連理事長

5 研究員に望む (多くの体験・実践を積む)

- (1) 3 カキ (恥・汗・べそ)
- (2) 3 人行えば、必ず我が師あり (目標とする先輩)
- (3) 「一燈照隅 万燈照国」 一燈を下げて暗夜を行くが如し 暗夜を憂うなかれ 只 一燈を頼め

↓
「ロウソクは身を減らし 人 (周囲) を照らす」

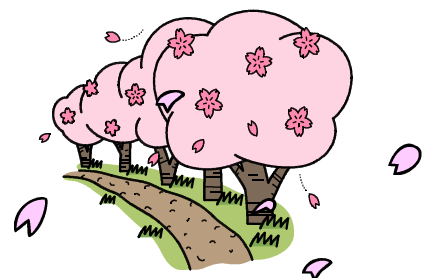
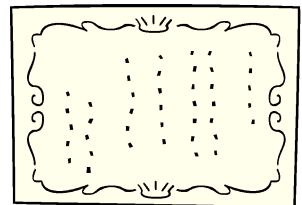
- (4) 教師は口は大きい、耳は小さい 生ぬるい集団
学校と家の往復 (地域との関わり・父母との関わりを大事に)
- (5) 問題や事故の対応・・・誠意と迅速
- (6) 見抜く力 (気配り・目配り・心配り)・・・日頃より鍛錬
○生徒指導・・・教師としての本務 (薫習)
教育の道は、家庭の教えて芽を出し、
学校の教えて花が咲き、
世間の教えて実がなる



写真1 熱く語る上原武 教育長



写真2 講話の様子



後期教育研究員の感想 (研修日誌から)

「温故知新」という題を聞いた時、教育の歴史等を講話されるのかなと思っていましたが、教育長自身の教員生活の中での大事にしている事を講話して下さいました。教育長の話を聞いて、とても情熱的だなと感じました。生徒指導という苦しい立場だったと思いますが、全て“子ども達一人一人が変わるように”という想いで対応している姿はとても尊敬します。教師の変えたいという想いと行動力があれば、子ども達は少しずつ変化してくるんだなと思いました。また子ども自身が自分の変化に気付いたり先生が真剣に向き合ってくれていると実感することができれば、自然と感謝の気持ちが生まれてくるんだなとエピソードの中から伝わってきました。教師としての情熱を全て子ども達に注げることはエネルギーを使うと思いますが、できる方法を考えて目の前の事に逃げずに向き合っていく大切さを学びました。私は教師歴が浅いですが、今の自分ができることをよく考えてそのことに向き合って取り組んでいきたいです。子ども達の記憶に残る教師になりたいです。(国吉亜矢)

上原武教育長の講話は、笑いあり、涙ありの心に響くお話でした。最初は、手品のような仕掛けで、聴く人の心を掴み、その後は、座ったまま簡単にできるゲームで、気持ちをぐっと引きつけ、それから、本題に入っていました。こんな風に楽しく、講話ができるということは、教育長が現役であられた時の授業も、子どもを飽きさせないような工夫がたくさんあったのだろうなと想像することができました。

感動したのは、荒れた中学校での教師時代、卒業式に生徒たちにひどい目に遭わせられそうになったときの話です。大勢の生徒に呼び出されて、いよいよ棒で殴られると覚悟をしていたら、何と、渡されたのは、花束であった…。というもの。生徒たち一人一人に真剣に向き合い、情熱をもって接してきたすばらしい教師であったことが伺えました。最後に、研究員に望むこととして、お話下さいました。3かき「恥・汗・ベソ」を忘れずに研究に励んで欲しい。目標にする先輩を見つけて欲しい。自分の目標を持って、周りの人を明るく照らして欲しい。誠意と迅速で。見抜く力を持って。日頃より、鍛錬を。など。教育に情熱を傾け、誠心誠意がんばってきた上原武教育長の講話から学んだことを胸に、これからの教員人生、精一杯がんばります。(比嘉頼子)

南部広域行政組合教育委員会 上原武教育長は、噂では聞いていたのですが、あまり雰囲気は教育長らしくなかったです。元々教員出身ということでお話をされるとやはりとても熱い人だと思いました。まず漢字の成り立ちについての話でした。一番いいと思ったのは恩という字で、感謝の意味が込められているということを知りました。あと少しで第4子が生まれるので、漢字の成り立ちも意識して命名しようと思います。

あと、松島中学校での教員をした時のことも、初めて担任をして失敗したこと、子どもの記録を細かくとっていたこと、終了証書のことなど、今の時代でも大切にしないといけないと感じました。しかし、シンナーについて、昔はそんなにたくさんいたんだとびっくりしました。僕が小学生の時も、担任の先生がシンナーは怖いという話をしてくれたのを今でも覚えています。周りに吸っている人はいませんでした。きっと上原教育長のような方達のおかげでなくなってきたのでしょう。あと、印象に残っている言葉が「教師は生ぬるい集団」です。「学年や校務分掌の希望なんて普通の会社で通るわけがない」とか「仕事があるだけ感謝しろ」といつも父親から言われています。なので僕はいつも校長にお任せしています。

子ども一人一人はかけがえのない存在なので、これまで以上にいっぱい恥、汗、ベソをかきながら楽しく仕事をしていきたいです。(久高友弥)

教育長講話では、上原武 教育長が情熱をもって教育にあっていたことやYMCAで培ったレクで子ども達を楽しませていたことなどをおりませでお話ししていただきました。教育長のルーティーンである、一日千字・パソコンゲーム・3日に1回は1万歩を欠かさずにおこなっていることがパワーの源になっていると感じました。私自身も教育長のようにパワーとなるMyルーティーンを見つけたと思います。

他にも、「人は大きく心は丸く、腹は立てずに、木を長くまつ」の意味で表現された「人己心腹松」は、とても印象に残りました。常にプロ意識をもって教育に携わり、子ども一人一人を大切にすることを忘れずに、教育長のように子ども達の記憶に残る教師になれるように日々努力していきたいです。(富名腰由紀)

私達の感想を目をみてしっかり聞いてくださる上原教育長をみて、現役時代も生徒ひとりひとりに真剣に向き合っていて、人とのつながりを大切にされた生徒指導を実践されてきた方だと感じました。レクゲームも準備の時間の選ばないものを紹介してもらい学級でも職員間でのレクなどの両方で活用したいと思います。

多くの言葉をいただきました。「教育とは人生の種まきをすること」「努力する人は希望を語り怠けるひとは愚痴を語る」など、どれも共感できるものでした。また、初任者の先生方に「ひとりでもがくのではなく、師となる先生をさがしてなっていくんだよ」という声かけ、暖かい言葉だと思いました。気配り・目配り・心配りを日頃から鍛錬している上原教育長だからこその言葉だと思いました。4月に現場にもどったとき、目標とされる先輩になれるようにこれから気配り・目配り・心配りを実践していきたいです。(波照間生子)